

令和6年度第3回大分県総合教育会議次第

令和6年12月12日（木）

16:00～17:00

県庁舎新館大会議室

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 子どもたちへのキャリア教育と県の持続的発展（県内就職）
について

4 閉会

県内産業のニーズの把握について

- ・ 連携機関（※）による連携協議会（年2回実施）で意見交換を実施し、求人・求職動向を把握
 ※大分労働局、大分県総合雇用推進協会、産業人材政策課、学事・私学振興課、特別支援教育課、高校教育課
- ・ 県等（産業人材政策課、高校教育課、大分労働局）が主催する意見交換会に、高校進路担当者と県内企業の人事担当が参加し意見交換
- ・ 各高校が実施している企業訪問で、学校が聞き取った企業情報（企業が求める人材（技術、知識、技能等））を高校教育課に情報共有

学びの充実および県内産業ニーズを踏まえた学科改編等

学科新設	国東高校環境土木科、情報科学高校デジタル創造科
コース新設	国東高校普通科「ビジネスIコース」、三重総合高校生物環境科「環境土木コース」
学科改編	情報科学高校A Iテクノロジー科、情報科学高校ビジネスソリューション科、
クラス増	大分工業高校電子科、大分工業高校土木科、情報科学高校ビジネスソリューション科
私立高校	特色ある学科、コースの設置（大分高校：自動車工業科、福德学院：トータルビューティ科、岩田：APU立命館コース 等）

県内高校(高校教育課、学事・私学振興課)の主な取組

工業	・ キャリアアドバイザーの配置（県内企業の情報収集・発信及び高校と県内企業との関係づくりを担う）・ 県内企業との連携支援（技術支援等）
商業	・ 地元起業家等と連携した地域の未来を担うビジネスプランの考案を通じてアントレプレナーシップを醸成 ・ インバウンド向け観光ツアーの企画
農業	・ スマート農業を通じた学び、実践型先端技術学習
福祉	・ 企業、施設と連携し先進的な知識・技術（介護ロボットやICT化）を持った介護・福祉のスペシャリスト育成
私立高校	・ 学校内のキャリア教育を促進するためにコーディネーターを配置する等の支援（キャリア教育コーディネーターの設置） ・ 理工系人材輩出のための理工系教育パワーアップ支援（O-Like）（理工系人材育成支援事業）
その他	・ インターンシップの奨励、外部講師による授業の実施 ・ 地元企業等と連携した地域課題解決学習の取組（郷土愛の醸成）

県内小中学校（義務教育課）の主な取組

キャリア教育推進事業	地域・社会や産業界との連携、地域の良さを活かした商品開発等の行動を伴った探究的・協働的な学習の推進
キャリア学習	地域・社会や産業界の協力のもと「職業人・社会人講話」「職場体験学習」等

産業人材の育成に向けた学びの実践・拡充（学科・コース改編等の事例）

【土木人材育成】

国東高校（環境土木科） [学科新設]R2年度～	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携の実践的な学びの充実と最先端技術を取り入れた幅広い学習連携先：地元建設業、建設業協会、森林ネットおおいた、森林組合等 世界農業遺産の保全に係るため池整備活動
大分工業高校（土木科） [クラス増]R6年度～	<ul style="list-style-type: none"> ICT施工（ドローン測量、3DCAD、CIM等）に対応した学びの充実 連携先：国土交通省、県内企業、県内大学、関係部局等 学校設定科目「防災学」を導入し、自然災害における土木の役割を学習
三重総合高校（生物環境科） ＜環境土木コース＞ [コース新設]R6年度～	<ul style="list-style-type: none"> 1年次に農業、土木の両分野を総合的に学習し、2年次にコース選択 食料生産や環境保全の知識、技術を土木分野に生かす教育の実践 豊後大野市、竹田市を中心に、地域を担う土木人材を育成



遠隔操縦式バックホウシミュレーション体験
(ICT施工体験学習)

【海洋人材育成】

海洋科学高校（海洋科）	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な学びによる海技士の育成（遠洋航海実習（約2か月）等） 地域や産業界等と連携した水産業や海洋資源に関する学びの充実 地域イベント等における水産PR（干物づくり等の体験）
-------------	---



「海の仕事」を体験的に学習
(遠洋航海実習)

地域産業等の特色を生かした学校活性化の取組（全国募集の事例）

久住高原農業高校（農業科） (H31年度入試～) 県外からの入学者のべ33名（R6:9名）	<ul style="list-style-type: none"> 地元農業事業者等と連携した地域農業に触れる実践・探究的学習として学校設定科目「チャレンジMy農場」などを開講 即戦力・技術力を重視した経営実践コースと課題解決力を磨くプロジェクト探究コースの2コースを展開
国東高校（全学科） (R5年度入試～) 県外からの入学者のべ6名（R6:2名）	<ul style="list-style-type: none"> 「宇宙に関する学び」を総合的な探究の時間で実施、R6年度入学生から専門的に学びを深める「SPACEコース」を設置 農業、工業、商業など多様な学科、コースを設置
安心院高校（普通科） (R5年度入試～) 県外からの入学者のべ2名（R6:2名）	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を持った地域での学びを実現（小・中・高連携） 普通科内で「園芸」「食文化」「情報」等の多様なコース選択 発酵、醸造をテーマとした探究学習を開始
日田林工高校（林業科） (R7年度入試～)	<ul style="list-style-type: none"> 時代に即応した高性能林業機械の実習やスマート林業に取り組む 演習林実習では植林、間伐、林道設計を実習を通して学ぶ 林業職に特化したインターンシップ等の充実（全国有数の林業地）



食料生産に必要な栽培・飼育や機械操作技術の習得

令和5年3月の県内卒業生の就職・進学等の状況

学校等別就職・進学の状況

令和5年度大分県新規学卒者実態調査より

	R5.3 卒業生 総数	就職			進学			その他 (一時的な仕事に 就いた者、無業者、 それ以外の者)	
		(県内)	(県外)	就職計	(県内)	(県外)	進学計		
県内 卒業生	高校生	9,143	1,523 (16.7%)	467 (5.1%)	1,990 (21.8%)	3,050 (33.4%)	3,820 (41.8%)	6,870 (75.1%)	283 (3.1%)
	専門学校生	1,455	915 (62.9%)	397 (27.3%)	1,312 (90.2%)	45 (3.1%)	16 (1.1%)	61 (4.2%)	82 (5.6%)
	短大・高専生	922	500 (54.2%)	166 (18.0%)	666 (72.2%)	98 (10.6%)	69 (7.5%)	167 (18.1%)	89 (9.7%)
	大学生	3,281	755 (23.0%)	1,685 (51.4%)	2,440 (74.4%)	197 (6.0%)	115 (3.5%)	312 (9.5%)	529 (16.1%)
	計	14,801	3,693 (25.0%)	2,715 (18.3%)	6,408 (43.3%)	3,390 (22.9%)	4,020 (27.2%)	7,410 (50.1%)	983 (6.6%)

(その他に専修学校・外国の
学校等入学者含む)

(その他に専修学校・外国の
学校等入学者含む)

専門学校			短大・高専生			大学		
(県内)	(県外)	計	(県内)	(県外)	計	(県内)	(県外)	計
1,239	859	2,098	743	168	911	1,068	2,793	3,861
(13.6%)	(9.4%)	(22.9%)	(8.1%)	(1.8%)	(10.0%)	(11.7%)	(30.5%)	(42.2%)

※高校生の
進学先詳細

県内就職の状況

県内の高校、大学などから県内企業等に3,700名弱就職 (R5.3卒業者)

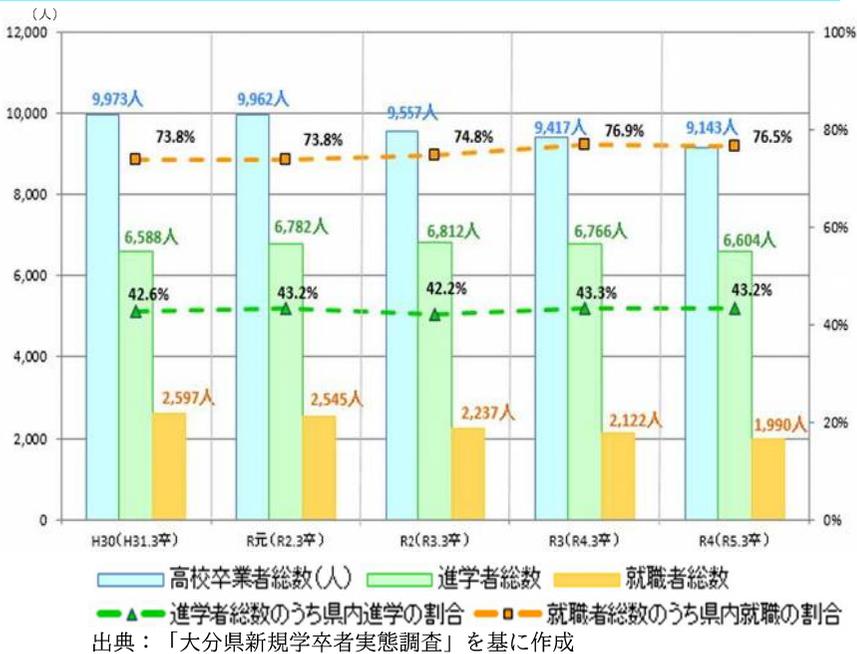
県内高校生の進路状況について

～大分県産業人材確保・育成プランより～

【高校生の県内就職について】

1. R5.3卒の県内高校卒業者は9,143人とH31.3卒の9,973人と比較して5年間で830人減少している。(図1) 進学者数はほぼ横ばいで、就職者数は2,597人から1,990人と607人減少しており、卒業生の減少が就職者数の減少になっている。
2. 大学・短大などへの進学者のうち半数以上が県外に進学。県外進学者の約1/3が福岡県に進学。(図2)

県内高等学校卒業者の進路状況 (図1)



令和5年3月卒 本県出身者の大学・短大進学状況 (図2)

エリア別進学地域	人数
九州・沖縄	3,429
関東	455
近畿	371
中国	371
四国	85
中部	91
北海道・東北	34
計	4,836

県別進学地域	人数
大分県	1,685
福岡県	1,128
熊本県	224
長崎県	133
宮崎県	107
鹿児島県	71
佐賀県	49
沖縄県	32

出典：「学校基本調査」を基に作成
 ※「浪人生含む、専修学校進学者は含まない」ため、計が左記図と不一致

産業人材確保・育成に係る主な課題

～大分県産業人材確保・育成プランを基に作成～

資料5

1.多様な人材が活躍できる環境づくり

若年者の就業支援

- ・人口減少、少子高齢化に伴い、県内高校卒業者数は過去5年間で約800人減、就職者数自体は約600人減
- ・県内就職率はおおよそ75%で推移（九州2位）しているため、県内就職者は毎年約100人減少している
- ・県内大学等卒業者の県内就職率は約3割で推移しているが、県内高校出身者が県内大学などに進学した場合の方が就職率は高い
- ・進学者全体の約1/4が福岡県へ進学しているが、福岡へ進学した大学生等のうち就職のタイミングで県内に戻るのは約3割
- ・県内高校生を対象にしたアンケートでは「県外に一度出たいが、将来的には大分県に戻って住み続けたい」が一番多い
- ・3年以内の離職率は高校生で38.4%、大学生で34.9%（R3.3卒：全国）と高く、ミスマッチを防ぐ対策も必要

外国人材の受入れ・活躍促進

- ・人口あたりの留学生数は全国トップクラスであるが令和5年度の留学生の県内就職率は7.1%
就職や起業等の支援を通じて留学生の県内定着を図ることが必要（例：APUの卒業生（高度外国人材）の県外流出）
- ・在留外国人は18,568人（R6.6）就労する外国人は9,982人（R5.10）と過去最高を更新
- ・ベトナムの大学と別府市旅館ホテル組合連合会との人材確保に関する協定締結など、高度人材確保の取り組みも実施

2.産業を支える人づくり

技術・技能の振興

- ・製造業における若年就業者は全国的に年々減少しており、優れた技術・技能を有する人材の育成を推進
- ・ものづくりや科学に対する興味関心が一層高まるよう、団体の連携構築、指導者の育成・確保など、科学体験活動の基盤強化
- ・優れた技能者・技術者の大量退職を見据えた技能尊重の機運の情勢、技能者・技能者の社会的評価の向上に向けた取組の推進

職業能力開発の取組

- ・人材不足のため、県立職業能力開発施設への入校生が減少傾向
- ・地域企業が求める即戦力人材を着実に育成していくためにも、職業訓練の認知度向上や地域との連携強化、支援体制の充実が一層必要
- ・ものづくり企業のデジタル技術の進歩に対応できる人材を育成するため、技術革新に対応できる訓練設備の整備や指導員の技能・指導力向上が重要

議論していただきたいこと

- 子どもたちが「県内企業で働くことは自分の夢を実現する魅力的な選択肢」と思うようになるために、産業界に求められることは？
- 子どもたちの夢の実現のため、教育界（教育現場）が取り組むべきことは？